プロジェクト評価報告書

プロジェクトマネジメント演習

2016年7月19日

矢吹研A班

メンバ

PM 1442043 川崎 貴雅

1442012 岩瀬 翔

1442020 大木 崇雅

1442031 小山 隆太郎

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| シニア承認 | ユーザ承認 | PM確認 |
|  |  |  |

＜目次＞

[1 プロジェクト名 2](#_Toc456887891)

[2 プロジェクトメンバー 2](#_Toc456887892)

[3 開発期間 2](#_Toc456887893)

[4 開発費用 2](#_Toc456887894)

[5 概要および結果 2](#_Toc456887895)

[6 メンバ/リーダーの所見，意見，感想，反省点（メンバ名と所見） 2](#_Toc456887896)

[7 得られた成果【有効だったもの】【新たな発見】など 3](#_Toc456887897)

[8 問題点・課題点(反省点) 3](#_Toc456887898)

[9 次回の改善プラン(再発防止処理) 3](#_Toc456887899)

[10 Quality:品質 4](#_Toc456887900)

[10.1 目標の達成 4](#_Toc456887901)

[10.2 提供したサービス 4](#_Toc456887902)

[10.3成果物 5](#_Toc456887903)

[10.4 プロジェクト報告書6項にメンバからの反省点が記載されているので完了とする． 5](#_Toc456887904)

[11 Cost:コスト 6](#_Toc456887905)

[11.1 制約条件 6](#_Toc456887906)

[11.2 人件費 6](#_Toc456887907)

[12 Delivery:納期 7](#_Toc456887908)

[12.1 各タスクの日程 7](#_Toc456887909)

[12.2 考察 7](#_Toc456887910)

1. プロジェクト名

コンビニ弁当情報サイト開発プロジェクト

1. プロジェクトメンバー

1442043 川崎　貴雅

1442012 岩瀬　翔

1442020 大木　崇雅

1442031 小山　隆太郎

1. 開発期間

4月22日~7月22日

1. 開発費用

予定：2860 (千円)

利益：286(千円) 利益率10%

1. 概要および結果

今回のプロジェクト概要は，コンビニ弁当を閲覧するサイトを外部の班に制作を発注して開発期限内に作ってもらうことだ．結果として要件定義を満たした成果物が納期内に納品完了したため，本プロジェクトは成功である．

1. メンバ/リーダーの所見，意見，感想，反省点（メンバ名と所見）

川崎　貴雅

皆さんお疲れさまでした．前半のスケジュール管理を失敗したため大変皆さんに迷惑をかけましたが，何とか納品にまでこぎつけたのは皆さんのおかげですありがとうございました．

岩瀬　翔

　今回のプロジェクトでは初めてのことが多く，勉強になる部分が多かった．成果物の作成ではシニアレビューからユーザレビューという流れの中で，承認が貰えず苦い思いをした．しかし，こういった経験は中々できないものだと思うので，今後のプロジェクトなど将来の役に立たせたい．

大木　崇雅

今回のプロジェクトを通して，バージョン管理の大切さを学ぶことができた．GitHubの扱い方に少し苦労したが，最終的に使えるようになれた．B班が外部設計書以上のシステムを作ってくれてとても満足している．

小山　隆太郎

みなさん本当にお疲れ様です．メンバのみんなに馴染むことが不慣れだったため上手く伝達事項を伝えられないことが多々ありました．プロジェクトを進めていくうちに自分の役割を意識することができました．納品まで遂行できたのは皆で団結できたおかげです．本当にありがとうございました．

1. 得られた成果【有効だったもの】【新たな発見】など

今回はGithubを用いてバージョン管理を徹底したため，どれが最新のファイルなのかわからずに混乱するインシデントを避ける事ができた．ファイルも共有されていて，メンバなら誰でも編集できるため，時間をとても節約することができた．

1. 問題点・課題点(反省点)

今回のプロジェクトでは，書類等の作成は分担して作業できたが，他班のWebサイト作成の作業分担ができずに，1人の作業時間が多くなってしまった．これは作業範囲を明確に決めずに曖昧なまま作業に取り組んでしまったことが原因と考える．他にはプロジェクト開始初期に，具体的にどのようなWebサイトを作るかを決めずに要件定義を書いてしまったため，後になって書類を書き直す手間が多くなってしまった．

1. 次回の改善プラン(再発防止処理)

次回は今回の様に1人に負担がかかりすぎないよう，作業範囲を明確に決定し，ページごとに責任者を立てることで次回は改善する．もう1つの問題点については，やはり，何をして何をしないのかを明確に決めておく．

1. Quality:品質

本プロジェクトの評価を以下の内容で評価する．

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 番号 | 評価項目 | 評価詳細 |
| 1 | 目標の達成 | 本プロジェクトのプロジェクト憲章の3項にある「プロジェクト目標」を満たすことでプロジェクト達成とする． |
| 2 | 提供したサービス | 提供したサービスは，要件定義書の3項にある「機能要求」を満たしたシステムをユーザに納品することでプロジェクト達成とする． |
| 3 | 成果物 | 成果物は，プロジェクト憲章8項目の成果物を納品し，  成功とする． |
| 4 | 反省点 | 反省点は，本プロジェクトメンバーからアンケートを実施し，その結果をプロジェクト報告書の６項目にある「メンバ/リーダーの所見，意見，感想，反省点(メンバ名と所見)」に記載することで達成とする． |

## 10.1 目標の達成

プロジェクト憲章3項を満たすことができたので完了とする．

## 10.2 提供したサービス

要求定義書3項の機能要求を満たしたシステムをユーザに納品することができたので完了とする．

## 10.3成果物

本プロジェクトの成果物はプロジェクト憲章8項の一覧を表にし，その表に納品した場合は「○」で，納品していない場合は「×」で記載する．

|  |  |
| --- | --- |
| 成果物 | 納品 |
| プロジェクト憲章 |  |
| 要件定義書 |  |
| プロジェクト計画書 |  |
| コスト見積書 |  |
| 契約書 |  |
| 外部設計書 |  |
| 内部設計書 |  |
| システム |  |
| テスト報告書 |  |
| 納品書 |  |
| マニュアル |  |
| プロジェクト評価報告書 |  |
| 最終発表資料 |  |
| 週報 |  |

## 10.4 プロジェクト報告書6項にメンバからの反省点が記載されているので完了とする．

1. Cost:コスト

## 11.1 制約条件

ガントチャート及びコスト見積書を参照し，それにも基づいて記述していく．

## 11.2 人件費

人件費を作業ごとに分け以下に記す．

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 見積り | 実コスト | 差異 |
| プロジェクト憲章 | 176,000 | 238,000 | -62,000 |
| 要件定義書 | 44,000 | 86,000 | -42,000 |
| プロジェクト計画書・コスト見積書 | 410,000 | 430,000 | -20,000 |
| 外部設計書 | 176,000 | 230,000 | -54,000 |
| 契約書 | 176,000 | 42,000 | 134,000 |
| 中間発表資料 | 220,000 | 220,000 | 0 |
| テスト計画書 | 164,000 | 178,000 | -14,000 |
| 外部発注書 | 110,000 | 143,000 | -33,000 |
| 内部設計書 | 340,000 | 313,000 | 27,000 |
| システム | 510,000 | 510,000 | 0 |
| テスト報告書 | 255,000 | 245,000 | 10,000 |
| 納品書 | 66,000 | 14,000 | 52,000 |
| マニュアル | 80,000 | 112,000 | -32,000 |
| プロジェクト評価報告書 | 74,000 | 76,000 | -2,000 |
| 最終発表資料 | 64,000 | 36,000 | 28,000 |
| 合計 | 2,860,000 | 2,873,000 | -8,000 |

　考察

本プロジェクトでは見積りと実コストの合計差異が-8000円となってしまったが，コンティンジェンシー予備費（286,000円）を使用することで最終的な差異は±0円となった．中間発表までのコストにおいてマイナスになる部分が多かったが，後半はマニュアルや納品書を前倒しで作成するなど，作業を効率良く出来たと考えられる．

1. Delivery:納期

## 12.1 各タスクの日程

以下の表に示す．

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 基準計画 | | | 実行記録 | | |
| タスク名 | 開始 | 終了 | 実作業日数 | 開始 | 終了 | 実作業日数 |
| プロジェクト憲章 | 4/22 | 4/26 | 5日 | 4/22 | 5/2 | 8日 |
| 要件定義書 | 4/22 | 4/26 | 5日 | 5/13 | 5/17 | 5日 |
| プロジェクトマネジメト計画書 | 5/6 | 5/16 | 7日 | 5/13 | 6/2 | 19日 |
| コスト見積もり書 | 5/17 | 5/19 | 2日 | 5/17 | 5/19 | 2日 |
| 外部設計書 | 5/20 | 5/25 | 6日 | 5/20 | 6/2 | 14日 |
| 契約書 | 5/26 | 5/31 | 5日 | 6/1 | 6/2 | 2日 |
| 中間発表 | 5/31 | 6/3 | 4日 | 6/1 | 6/3 | 3日 |
| 外部発注書 | 6/4 | 6/9 | 6日 | 6/6 | 6/17 | 10日 |
| 内部設計書 | 6/11 | 6/17 | 6日 | 6/11 | 7/1 | 13日 |
| テスト計画書 | 6/16 | 6/21 | 7日 | 6/16 | 6/28 | 10日 |
| システム作成 | 6/22 | 7/5 | 19日 | 7/5 | 7/15 | 11日 |
| テスト報告書 | 7/6 | 7/15 | 10日 | 7/15 | 7/15 | 1日 |
| 納品報告書 | 7/15 | 7/17 | 3日 | 7/8 | 7/8 | 1日 |
| マニュアル作成 | 7/16 | 7/18 | 3日 | 7/16 | 7/18 | 3日 |
| 最終発表資料作成 | 7/16 | 7/18 | 3日 | 7/16 | 7/18 | 3日 |

## 12.2 考察

プロジェクト計画書と、外部設計書が大幅にプロジェクト全体のボトルネックとなってしまった。中間発表で一度全体の遅れをリセットできたが、一度完成した外部発注書に大きな見落としが見つかり、もう一度ユーザ承認を得ることに時間がかかってしまった。その分の遅れをシステム作成とテスト報告書で取り戻した。